

10月は第43回日展の審査員の仕事で、そのほとんどの時間を、東京六本木の国立新美術館で過ごしました。しかしながら同じく審査に当たられた芸術院会員の先生方をはじめ、東京芸大や京都芸大の先生がたと大変貴重な経験をさせていただいたと感謝しています。

日展は今から100数年前、1907年の第1回文展（文部省美術展）にその始まりがあります。1958年に再組織化され民営化されますが、明治以来、第4科工芸美術の作家は技術は当然のこととして、自身の想いを表現するということに重きを置いてきました。そしてその結果生み出されてきたものは製品ではなく作品と呼ばれてきたのです。明治、大正、昭和、平成を通じて日展の工芸が唱えてきた「創意本流」の視点がいつの時代にも共通した概念でした。

作者：青木 清高

2011年 11月 08日(火曜日) 15:51 - 最終更新 2011年 11月 10日(木曜日) 07:27



作者： 青木 清高

2011年 11月 08日(火曜日) 15:51 - 最終更新 2011年 11月 10日(木曜日) 07:27

---

■写真説明 各科に分かれている国立新美術館の展示場



国立新美術館の展示場、各科に分かれている。写真撮影は、青木清高の工房で行われた。

作者： 青木 清高

2011年 11月 08日(火曜日) 15:51 - 最終更新 2011年 11月 10日(木曜日) 07:27

---



■写真説明 多くの若い作家の出品も目立った。